

「経営敗戦」と次の70年

新たなる創造的破壊者集団を目指して



副代表幹事
改革推進プラットフォーム事務局長
富山 和彦
経営共創基盤
代表取締役 CEO

経済同友会は70年前、敗戦の翌年に当時40歳代の新進経済人を中心に設立された。大先輩たちは、企業や業界の枠にとらわれない個人の立場から、戦後の経済社会全体の復興と発展のために本気で貢献せんとして本会に参集したのである。

次の70年を迎える今の時代をどうとらえるか？ 私は、バブル崩壊から四半世紀を超えて続く緩慢な「経営敗戦」からの再興の時代と考えている。

私は13年前、産業再生機構の責任者として「経営敗戦」処理の一部を担った。当時、日本のバブル崩壊と相前後して本格化したグローバル化とデジタル革命によって、多くの産業で「日本的経営」の優位性が失われつつあると感じていた。

かつて、敗戦という「破壊」の中から先輩たちが「創造」した日本的経営システムは、社会保障制度や教育制度なども巻き込んだトータルな社会経済システムとして実によく機能し、「一億総中流」といわれる安定と繁栄の時代を築いた。故青木昌彦先生が学術的に証明した通り、その成功には高度の科学性があった。しかしそのトータル性ゆえに、中核

にある企業経営の根本的な競争力が低下した場合の深刻度は大きい。

残念ながら、その後もあとを絶たない大規模な粉飾事件、その背景にある「稼ぐ力」すなわち成長力と収益力の喪失、そして経済の長期停滞と財政や社会保障の持続性の危機は、問題の根の深さと広さを示唆している。これまた青木先生が懸念されていた通りだった。

新たな70年に向けて、私たちは経済同友会設立の原点に戻り、「経営敗戦」の時代を終わらせ、真に未来志向の「創造的破壊」集団として、新たなる日本の社会経済システムの再構築をリードしなくてはならない。

私もすでに56歳。設立当時の中核メンバーからみればまったくの年寄りだ。いつの時代も創造的破壊を担うのは、若い精神を持った新たな世代である。私たち古い世代は、「五重苦」「六重苦」のような他責論や、「経済界としては」「〇〇業界としては」といった狭い見の発想・発言は封印しよう。そして、高い志を持った若き新進経済人を応援し、対等の目線で切磋琢磨して、70年後の後輩たちから第二の「創造的破壊者」たる大先輩と認識されることを目指そう。

No.791
August・September 2016
経済同友会 8・9

C O N T E N T S

特集 1

代表幹事ミッション 02
中国・北京

特集 2

2016年度(第31回)経済同友会 夏季セミナー 10
Japan 2.0 SAITEKI社会への挑戦

Close-up 提言

資本効率の最適化委員会【提言】 25
志賀 俊之 委員長
収益力強化のために
経営者は事業組み換えの実践を

環境・資源エネルギー委員会【提言】
朝田 照男 委員長
再生可能エネルギーの
普及・拡大のために大幅な規制緩和を
人材の採用・育成・登用委員会【提言】
櫻田 謙悟 委員長
ダイバーシティを進化させグローバル
デジタル時代を勝ち抜くKPI設定を

米州委員会【提言】
小林 いずみ 委員長
企業経営者はミレニアル世代の
価値観を先取りした改革を

Seminar

第1268回 会員セミナー 33
世界を照らすLED
天野 浩 氏 名古屋大学未来材料・システム研究所 未来エレクトロニクス集積研究センター センター長・教授

第1269回 会員セミナー 34
人工知能は経済構造をどう変化させるか
柳川 範之 氏
東京大学大学院経済学研究科・経済学部 教授

27 Column

巻頭言 富山 和彦 01
『「経営敗戦」と次の70年』

29 リレートーク 中村 悟 09
「思考は現実化する」

福島に“ほんとの空”が戻る日まで 36
～福島大学FUREの挑戦～ 森 知高 氏
「被災児童たちとかがわって」

31 私の思い出写真館 門脇 英晴 38
「アフリカで活躍する日本人の姿に、素直に感動」

外国人留学生への支援、TCER研究活動へのご協力をお願い 35

新入会員紹介 37

今月の表紙：シリーズ国花
【ダリア／メキシコ】
メキシコ原産のダリアは、古くから薬用・食用として栽培されていました。18世紀にヨーロッパへ渡るとさまざまな品種が生み出され愛されてきました。